

本校の概要

1 地域の特徴

伊方町は、日本一細長い佐田岬半島に位置し、平成17年4月1日より、瀬戸町、三崎町と合併し、新制伊方町となった。東は八幡浜市に隣接している。面積は約 94.34 km²、人口 8,817 人（令和3年4月1日現在）、基幹産業は柑橘栽培と沿岸漁業である。また、四国唯一の原発立地町でもある。

地域住民・保護者は、元来、純朴で勤勉な人々が多く、学校教育に対する関心高く、協力的である。特に、「伊方の子どもたちの幸せをめざし、伊方町をより豊かに、活気あふれた町にさせる」という願いのもと、中学校統合に向けて取り組み、平成10年4月に開校した。統合によって校区が広がったが、少子化のため統合する小学校もあり、現在校区内には2校の小学校がある。

2 学校の特徴

(1) 本校のあゆみ

本校は、昭和22年創立の町見中学校と伊方中学校の両校が51年の歴史を閉じて、平成10年4月に開校して誕生した新生伊方中学校である。

伊方中学校の前身である伊方農業学校は、大正3年、郷土の先駆者佐々木長治氏によって、私立実践農業学校として創立した。のちに、昭和19年、愛媛伊方農業学校と改称された。更に昭和23年、愛媛県立川之石高等学校に合併された。当時、建立した記念碑が中庭にある。

統合により新しくできた校訓「健康・信愛・創造」は、両校の校訓を一つずつ取り入れるとともに、新しいものを求める豊かな創造性を育成することを目指している。



伊方農業学校
初代校長 小島喜昨氏による碑
「土を愛せよ」

(2) 生徒の実態

生徒は素直で明るく、生き生きとしていて現代っ子そのものである。反面、のんびり型で主体性に乏しく、示待ち傾向が見られたものの、統合後の生徒たちは、互いのよさに触れ、仲良く、だれもが意欲的に活動できるような学校づくりに努めてきた。

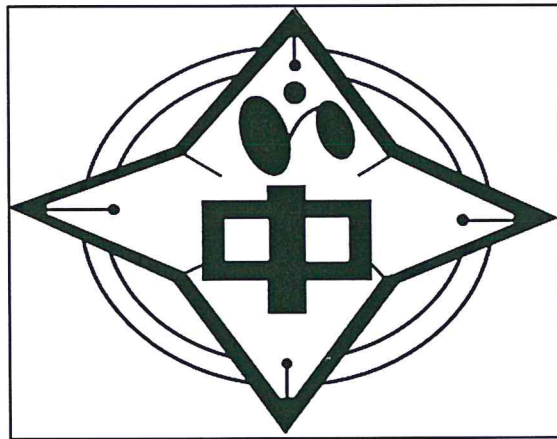
本年度の学校教育目標を「ふるさと伊方を誇り、強く生きる生徒の育成」とし、全校生徒が一丸となって文武両道を目指し、意欲的に教育活動に取り組んでいる。

[校訓]

[生徒像]

- ◇健康 心身ともにたくましい生徒
- ◇信愛 思いやりのある生徒
- ◇創造 向上心のある生徒

[校章]



- 町章で、愛郷及び一つにまとまる伊方町を象徴。
- 二つの輪で、二校の統合を表し、輪は和につながり、お互いを理解し合う優しい心を象徴。
- ペンで、生徒の本分である学習を象徴。

伊方中学校校歌「友よ」

作詞 坪内 稔典
作曲 河野美砂子

かぜはきら きら うちゅうのひかり
いかたの そらは うちゅうのひかり
ひかりの なかを すすもう すすもう
ともよ から だきたえて すこやか
に

- 一、風はきらきら
宇宙のひかり
伊方の空は 宇宙のひかり
ひかりの中を
進もう、友よ
体鍛えてすこやかに
- 二、波はきらきら
世界の響き
伊方の海は 世界の響き
響く心を
磨こう、友よ
肩組み合っていつまでも
- 三、^{つわ}石籬はきらきら
大地のいのち
伊方の土がはぐくむいのち
いのち喜び
励もう、友よ
未来へ夢を紡ぎつつ

校歌作者の プロフィール

坪内稔典（つほうち・としのり）

1944年生まれ。

伊方町九町出身。

大阪府箕面市在住。立命館

大学大学院修士課程修了。

高校教諭、園田学園女子大

学助教授などを経て、19

90年から京都教育大学教

授。専門は日本近代文学。

また、俳人でもあり、「船

団の会代表、柿衛文庫也雲

軒塾頭、大阪俳句史研究会

理事などをつとめる。

評論集に「正岡子規―俳

句の成立」「過渡の詩」「お

まけの名作―カバヤ文庫物

語」「俳句のユーモア」な

ど。句集に「朝の岸」「落

花落日」「百年の家」「人麻

呂の手紙」「坪内稔典俳句

集」などがある。

河野美砂子（こうの・みさこ）

京都市北区在住。新進ピア

ニスト。

5歳よりピアノを始める。

京都市立芸術大学音楽学部

卒業。

1988年、淡路島国際室

内楽コンクール優秀賞受

賞。

現在、京都市立芸術大学と

大阪音楽大学大学院の非常

勤講師。

1995年、第41回角川短

歌賞受賞、歌人でもある。